

☆大紀町立大宮中学校区の取組

◆事業概要

1 中学校区の現状と課題

大宮中学校区は、七保小学校、大宮小学校、大宮中学校で構成された校区です。

校区では、様々な要因によって、子どもたちが自己の思いを表現するコミュニケーション力が十分に高められず、学習意欲に影響が及んだり、自分に自信が持てなかつたりするという課題が見られました。そこで、本中学校区では、2012（平成24）年に再構築した人権教育推進協議会を基盤に、2015（平成27）年、大宮中学校区子ども支援ネットワーク委員会を組織し、学校・家庭・地域の連携のもと、取組を進めていきました。保護者をはじめ地域住民は学校の取組に理解を示し、様々な体験活動を通して子どもたちのコミュニケーション力を高めたり、自信を持たせたりできる活動を計画しました。



2 課題解決のための主な取組

(1) 農業体験

七保小学校では、農業体験でお世話になった老人会の人たちと餅つきをしたり、歓談のひとつときを設けたりしました。子どもたちは、感謝の言葉を述べた後、老人会の人たちと田植えや稲刈り体験を振り返ったり、つきたての餅を食べたりして、交流しました。お礼の会を通して、子どもたちは老人会の人たちをより身近に感じ、会話を楽しんでいました。



老人会へのお礼の会

大宮小学校では、田植えや花植え、かかしづくり、さらには滝原宮の祭りでの餅米販売体験や餅つきと年間を通じて、地域の人たちに支援をしてもらいました。子どもたちは、地域の人たちが事前に用意してくれた紐を頼りに、後ろ向きに歩きながらも等間隔に苗を植えることができました。かかしづくりでは、グループごとに分かれ、地域の人たちの手本を見せてもらいながら、かかしの顔を描いたり、かかしが倒れない工夫をしたりしました。子どもたちは地域の人へのあたたかさを感じながら意欲的に活動することができました。個性あふれるかかしづくりは、事前の準備から完成後のくい打ちまで、地域の人々の協力を得たからこそできた取組でした。



かかしづくり体験

地域の秋祭りで、子どもたちは収穫したうるち米や餅米を販売しました。大きな声でお客さんと呼び込む姿が見られ、自信を持って活動できていました。餅つきは3つの大きな臼を地域の人に用意してもらい、全員が体験することができました。子どもたちは、農業体験を支援していただいた地域の人たちとの年間を通じたかわりによって、コミュニケーションをする機会が増えるとともに、自信を持って主体的に活動できる姿が見られるようになりました。

(2) 茶道体験

大宮中学校では文化祭の日に、地域の茶道家を講師に招き、茶道体験教室を行いました。当日は、参加した大勢の地域の人を前に、子どもたちはお茶会を開く際の挨拶をはじめ、抹茶をたてる役、運ぶ役を分担し、作法やおもてなしといった所作等を学びながら、日頃味わえない体験をすることができました。また、お茶会の場で、人と人がつながることのよさを実感することもできました。



茶道体験教室

◆実践を振り返って

子どもたちは、地域住民と一緒に活動し、住民それぞれの得意な分野の支援を得て、多様な体験をしていくことができました。これらの取組を通して、子どもたちは地域住民から支えられ、大切にされているという実感を持つことができたと考えています。

今回の取組の中で、子どもたちの自尊感情が高まった要因として、子どもたちを褒めたり認めたりする機会を多く持ったことが考えられます。

今後も、地域連携から創出された活動の成果を振り返り、支援が必要とされる子どもに確実に届く取組を継続していきたいと考えています。